



## 通知表から感動を！パート2（一部再掲）

詩人でもあり、書家でもあります相田みつをさんの詩「点数」の一節にあることばを紹介させていただきます。相田みつをさんの詩は、目に見えないものの大切さ、ものの命の尊さを語りかけています。この詩の全文は「**にんげんはねえ 人から点数をつけられるために この世に生まれてきたのではないんだよ にんげんがさき 点数は後**」と書かれています。

今日15日（金）は、通知表渡しの日でした。私も、全校児童分の通知表に目を通させていただきましたが、通知表の所見欄からは、担任が子供たちの長所を発見しようとする姿勢が伺えました。ときに温かい眼差しで子供たちのよさが書いてあり、ときに今後ここに気を付ければもっと伸びるというヒントが書いてありました。そして、今後への期待なども書いてあり、私は子供たちの成長の様子やそれを見つめようとする本校の担任の姿に感動すら覚えました。教育の最も重要なことの一つに、「**子供が持って生まれた長所に気が付いて、それを持っている子供に感動すること**」があると思っています。例えば、昨日までできなかったことに挑戦し、それができるようになったり、運動会まで力を合わせて頑張ったことが実を結んだりしたときなど、教育現場は日々感動の連続でもあるわけです。この様に、長所は子供たちが、自分の特徴を伸ばそうと頑張った先にあります。



欠点のない人間なんていないように、長所のない人間もいません。その長所を発見して、いいなあと感激し合っ、そのことを子供自身にも気付かせることで、子供に限らず人間は「帯西レッド」の「自分を育てる心」を伸ばそうと思っています。そのために本校の「4つの心」という評価ツールを活用した道徳教育があるのです。

私は、欠点ばかりの人間でしたので、教師や大人たちが短所や欠点を先に直そうとすると、反発ばかりしている人間でした。しかし、小学校高学年のときの担任の先生が「のぶちゃん（幼少のときの呼び名）は、そのままいいんだよ。」「だから、その力をみんなのために活かしてね。」と自分を認め、期待を込めてくださいました。そこから自分に自信が付き、教師の道を志すようになったのです。

まずは長所の方を見付け出し、そこを子供と保護者とが共有し合うことで、子供は長所を頼りに、欠点を見つめてみようという構えができるのです。育児や教育の苦手な人ほど、子供の弱点や欠点ばかりにこだわっているように思えてきます。長所を見つけることが苦手だと思っている方は、「心のパズル」のピースを見ながら、「楽しい家庭をつくる」…「そう言えば、あの子なりに家の手伝いをしてくれているなあ、ありがとうって伝えてみようかな。」と心に思い描いてみてください。そして、実際に子供の行動を認めると子供は、行動に自信をもち、「もっとやってみよう！」と思うのです。

前述した、「感動」の心なのですが、相田みつをさんの「感動」を育むための答えは物凄く明確で「まず親が感動しなくては駄目だよ」という考えです。親の感動は必ず子供の心に伝わって行って、感動する心が芽生えるというわけです。今日の通知表を読まれて、子供の成長に感動され、それを子供とともに共有していただけると、大変ありがたいです。